



2023年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年7月28日
上場取引所 東

上場会社名 日本ゼオン株式会社
 コード番号 4205 URL <https://www.zeon.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中公章
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 曾根芳之 TEL 03-3216-2747
 四半期報告書提出予定日 2022年8月5日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満四捨五入)

1. 2023年3月期第1四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第1四半期	97,576	11.9	10,726	△22.6	12,940	△12.7	8,706	△13.4
2022年3月期第1四半期	87,171	25.4	13,865	221.7	14,831	192.6	10,051	181.1

(注) 包括利益 2023年3月期第1四半期 13,452百万円 (△14.3%) 2022年3月期第1四半期 15,705百万円 (148.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第1四半期	40.98	40.96
2022年3月期第1四半期	45.95	45.92

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第1四半期	498,082	328,084	65.2
2022年3月期	484,660	321,836	65.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第1四半期 324,552百万円 2022年3月期 318,623百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	13.00	—	15.00	28.00
2023年3月期	—				
2023年3月期(予想)		18.00	—	18.00	36.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	199,000	11.1	21,500	△13.8	23,000	△13.5	16,500	△10.3	77.88
通期	400,000	10.6	45,500	2.4	48,000	△3.0	34,500	3.3	163.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期1Q	237,075,556株	2022年3月期	237,075,556株
② 期末自己株式数	2023年3月期1Q	25,870,050株	2022年3月期	22,850,333株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期1Q	212,416,662株	2022年3月期1Q	218,736,580株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について)

当社は2022年7月28日(木)に証券アナリスト・機関投資家向け決算説明テレフォンカンファレンスを開催する予定です。当日使用する決算説明資料については、開催に先立ち当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないことに加え、半導体不足の長期化や原料及び物流費の高騰、また依然として緊張状態にある米中関係の影響やロシアのウクライナ侵攻による影響等、当社グループを取り巻く環境としては先行き不透明な状況で推移しました。

当社グループはこのような環境のもとで、「ZΣ運動」による徹底したコスト削減や、生産革新活動に注力するとともに、エラストマー素材事業におきましては採算性の重視と生産・販売のグローバル展開、高機能材料事業におきましては付加価値の高い新製品の開発と事業拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は975億76百万円となり、前年同期間に比べて104億5百万円の増収となりました。また、営業利益は107億26百万円と前年同期間に比べて31億39百万円の減益、経常利益は129億40百万円と前年同期間に比べて18億91百万円の減益、親会社株主に帰属する四半期純利益は87億6百万円と前年同期間に比べて13億45百万円の減益となりました。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

(エラストマー素材事業部門)

合成ゴム関連では、自動車減産の影響を一部受けるも全体としては底堅い需要に支えられ、国内販売、輸出版売、海外子会社いずれも堅調に推移しました。また原料高騰分の価格転嫁が進んだことから、全体の売上高、営業利益ともに前年同期間を上回りました。

合成ラテックス関連では、医療・衛生用手袋の流通在庫が引き続き過剰で需給が緩んだことに加え、原料高騰の影響も重なり、売上高、営業利益ともに前年同期間を大幅に下回りました。

化成品関連では、原料高騰分の価格転嫁が進んだことから売上高は前年同期間を上回りましたが、度重なる物流費高騰の影響等を受け、営業利益は前年同期間を下回りました。

以上の結果、エラストマー素材事業部門全体の売上高は、前年同期間に比べて48億28百万円増加し535億47百万円、営業利益は前年同期間に比べて20億11百万円減少し40億58百万円となりました。

(高機能材料事業部門)

高機能樹脂関連では、医療用途向け、大型テレビの需要は底堅く、光学樹脂、光学フィルムともに販売が堅調に推移しました。この結果、高機能樹脂関連全体の売上高は前年同期間を上回りましたが、ナフサ高騰などの影響に伴い原価率が悪化したこと等により、営業利益は前年同期間を下回りました。

電池材料関連では、新型コロナウイルスの感染拡大による中国ロックダウンや、顧客の生産調整の影響を一部受けましたが、総じて需要は堅調に推移し、売上高、営業利益ともに前年同期間を上回りました。

化学品関連では、合成香料及び特殊溶剤用途の需要が堅調に推移したことに加え、原料及び物流費高騰分の価格転嫁を進めたことにより、売上高、営業利益ともに前年同期間を上回りました。

電子材料関連では、世界的な半導体不足により半導体メーカーが高稼働を継続したため、需要は堅調に推移しました。この結果、売上高は前年同期間を上回りましたが、原料の高騰により、営業利益は前年同期間を下回りました。

トナー関連では、電子部品調達難による顧客の在庫調整の影響を一部受けたものの、総じて需要は堅調に推移しました。この結果、売上高は前年同期間を上回りましたが、棚卸資産の評価損、原料の高騰により、営業利益は前年同期間を下回りました。

以上の結果、高機能材料事業部門全体の売上高は、前年同期間に比べて49億17百万円増加し300億76百万円、営業利益は前年同期間に比べて7億80百万円減少し69億81百万円となりました。

(その他の事業部門)

その他の事業においては、子会社の商事部門等の売上高が前年同期間を上回りました。

以上の結果、その他の事業部門全体の売上高は、前年同期間に比べて11億8百万円増加し150億99百万円、営業利益は前年同期間に比べて1億59百万円減少し4億22百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べて134億23百万円増加し4,980億82百万円となりました。前連結会計年度末との差の主な要因は、棚卸資産の増加等によるものであります。

(負債)

当四半期連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べて71億74百万円増加し1,699億98百万円となり

ました。前連結会計年度末との差の主な要因は、支払手形及び買掛金の増加等によるものであります。

(純資産)

当四半期連結会計期間末の純資産合計は、前連結会計年度末に比べて62億49百万円増加し3,280億84百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年4月27日に公表しました業績予想の見直しは行っておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	47,271	29,736
受取手形及び売掛金	78,806	86,353
電子記録債権	3,692	3,362
商品及び製品	66,076	77,592
仕掛品	6,652	7,205
原材料及び貯蔵品	20,348	20,943
未収入金	41,156	46,607
その他	11,044	9,697
貸倒引当金	△99	△98
流動資産合計	274,947	281,396
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	46,706	46,200
機械装置及び運搬具(純額)	38,995	37,679
土地	18,151	18,194
建設仮勘定	10,153	14,210
その他(純額)	4,293	4,522
有形固定資産合計	118,299	120,806
無形固定資産		
その他	3,249	4,448
無形固定資産合計	3,249	4,448
投資その他の資産		
投資有価証券	80,729	83,614
繰延税金資産	616	671
その他	7,040	7,367
貸倒引当金	△219	△219
投資その他の資産合計	88,166	91,433
固定資産合計	209,713	216,687
資産合計	484,660	498,082

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	79,833	96,851
電子記録債務	3,161	3,152
短期借入金	8,960	8,960
1年内償還予定の社債	10,000	—
未払法人税等	7,042	3,375
賞与引当金	2,823	308
修繕引当金	3,275	5,944
その他の引当金	100	99
その他	23,458	27,443
流動負債合計	138,653	146,132
固定負債		
繰延税金負債	3,243	3,740
退職給付に係る負債	13,602	13,793
修繕引当金	2,021	805
その他の引当金	69	47
その他	5,237	5,482
固定負債合計	24,172	23,866
負債合計	162,824	169,998
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,211	24,211
資本剰余金	19,162	19,162
利益剰余金	272,679	278,172
自己株式	△23,000	△26,989
株主資本合計	293,053	294,556
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	21,186	21,970
繰延ヘッジ損益	2	5
為替換算調整勘定	4,767	8,395
退職給付に係る調整累計額	△384	△374
その他の包括利益累計額合計	25,570	29,995
新株予約権	126	126
非支配株主持分	3,086	3,407
純資産合計	321,836	328,084
負債純資産合計	484,660	498,082

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	87,171	97,576
売上原価	56,749	66,345
売上総利益	30,422	31,231
販売費及び一般管理費	16,557	20,505
営業利益	13,865	10,726
営業外収益		
受取利息	29	41
受取配当金	735	1,174
為替差益	9	1,062
持分法による投資利益	42	38
雑収入	302	114
営業外収益合計	1,117	2,428
営業外費用		
支払利息	32	30
休止固定資産減価償却費	38	70
雑損失	81	114
営業外費用合計	151	214
経常利益	14,831	12,940
特別利益		
固定資産売却益	0	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産処分損	45	31
投資有価証券評価損	178	762
その他	—	6
特別損失合計	223	799
税金等調整前四半期純利益	14,609	12,141
法人税等	4,489	3,301
四半期純利益	10,120	8,840
非支配株主に帰属する四半期純利益	69	135
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,051	8,706

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	10,120	8,840
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,265	785
繰延ヘッジ損益	△2	3
為替換算調整勘定	2,376	3,655
退職給付に係る調整額	△128	9
持分法適用会社に対する持分相当額	73	159
その他の包括利益合計	5,585	4,611
四半期包括利益	15,705	13,452
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,545	13,131
非支配株主に係る四半期包括利益	160	321

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(原価差異の繰延処理)

季節的に変動する操業度等により発生した原価差異は、原価計算期間末までにはほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産(その他)および流動負債(その他)として繰り延べております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自2021年4月1日 至2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	エラストマー 素材事業	高機能材料 事業	計				
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	48,718	25,159	73,878	13,990	87,868	△697	87,171
外部顧客への売上 高	48,141	25,153	73,294	13,877	87,171	—	87,171
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	578	6	584	113	697	△697	—
計	48,718	25,159	73,878	13,990	87,868	△697	87,171
セグメント利益	6,069	7,761	13,830	581	14,411	△546	13,865

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、RIM配合液、塗料等の販売等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△546百万円は、セグメント間取引消去12百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△558百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. その他の源泉から生じる収益の額に重要性がないことから、顧客との契約から生じる収益と区分して表示しておりません。
5. 一定の期間にわたり移転される財又はサービスから生じる収益は重要性がないことから記載しておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自2022年4月1日 至2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	エラストマー 素材事業	高機能材料 事業	計				
売上高							
顧客との契約から 生じる収益	53,547	30,076	83,622	15,099	98,721	△1,145	97,576
外部顧客への売上 高	52,710	29,963	82,673	14,903	97,576	—	97,576
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	837	113	949	196	1,145	△1,145	—
計	53,547	30,076	83,622	15,099	98,721	△1,145	97,576
セグメント利益	4,058	6,981	11,039	422	11,461	△735	10,726

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、RIM配合液、塗料等の販売等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△735百万円は、セグメント間取引消去19百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△753百万円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. その他の源泉から生じる収益の額に重要性がないことから、顧客との契約から生じる収益と区分して表示しておりません。
5. 一定の期間にわたり移転される財又はサービスから生じる収益は重要性がないことから記載しておりません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。